



産業の振興、文化財の 研究発表

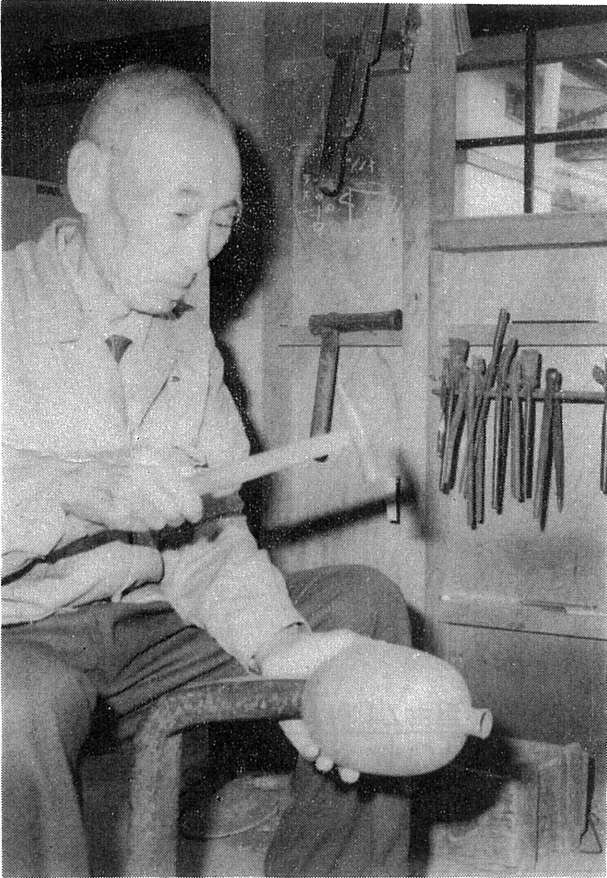
す 諏 訪 氏
とみ 富 多
た

(91才)

現住所

鹿角市

諏訪氏は、大正7年結成の大湯国有林開墾組合及び大正10年結成の大湯、錦木、柴平三カ村耕地整理組合の組合長として大清水の高原開墾、中通り台地約300町歩の耕地整理に取り組み、その推進に大きく貢献した。また、輸入種馬を用いての在来馬の改良、ニジマスの養殖、大湯焼、大湯彫人形の創作奨励に尽力、地元産業発展の基礎を作った。また、歴史、俳句、短歌、絵画などの文化面でも造詣が深く、なかでも中通り台地で発見した大湯環状列石（ストーンサークル）の発掘調査、出土品の保護、紹介に努力、県内外の考古学界に多大の貢献をした。



空目銅技術の研究と技術指導

しん とう てつ し
進 藤 鉄 治

(80才)

現住所

秋田市

進藤氏は、50有余年にわたり日本古来の伝統工芸である刀剣に施された空目銅技術の研究を重ね、その技術を現代に再現し、至難といわれた花瓶、香炉等に空目銅を施す技術を実現した。更に開発した技術の普及に努力し、昭和36年秋田県工芸家協会の設立に参画、現在は顧問として指導にあたられており、本県工芸技術の開発振興に大きく貢献した。

一方、氏は戦後民生児童委員として地域住民の世話活動に努め、社会福祉の向上にも尽力した。



教 育 の 振 興

いな 田 きん うえもん
稲 田 金右衛門

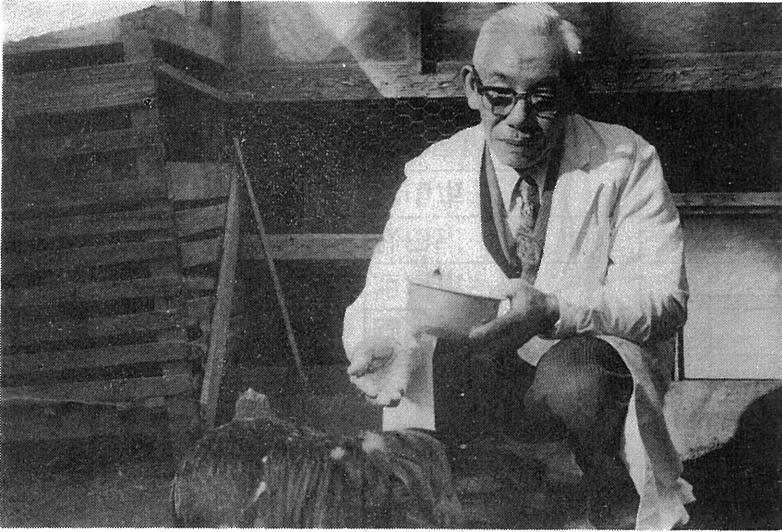
(77才)

現住所

仙北郡田沢湖町

稲田氏は、大正9年以来昭和29年までの35年間の長きにわたり教員、学校長として
県内各学校に勤務し、子弟の教育、学校経営、地域社会教育の向上発展に尽した。

戦後は、いち早く大曲、仙北の校長会を結成し自ら会長としてその組織づくり、研
究体制の整備、現職教員の指導育成に多大の功績をあげた。また、昭和32年10月以来
48年12月まで4期16年間にわたり県教育委員会委員および委員長として県教育行政の
重責を担い、すぐれた業績をあげ、県教育の向上、振興に大きく貢献した。



文化財の保護

やま た さだ じ
山 田 定 治

(76才)

現住所

大館市

山田氏は、大正9年以来全国の鶏の研究に携り、特に本県の声良鶏、比内鶏の愛育、保存に努力し、昭和8年設立の秋田県声良鶏保存会、秋田県比内鶏保存会の結成に尽力、同会を中心として天然記念物の指定に奔走、昭和12年には声良鶏、17年には比内鶏がそれぞれ国の天然記念物の指定をうけるに至った。また昭和34年には金八鶏も県の天然記念物に指定され、秋田三鶏（声良鶏、比内鶏、金八鶏）の隆盛、保存に大きく貢献した。



文化財の記録保存

いわ た とも き
岩 田 友 記

(75才)

現住所

秋田市

岩田氏は、大正12年秋田市に写真室を開設するとともに秋田県史跡名勝天然記念物調査委員となり、すぐれた写真技術をもって数多くの文化財を撮影、その保護と記録保存に尽力した。これら文化財のうち消滅したものあるいは変ぼうしたものが相当数あるが、長年にわたって撮影した写真は、文化財関係の記録保存のみでなく、今後の研究、調査資料としても貴重なものとなっている。

また、県内の観光写真にもすぐれた業績を残しているほか、後進技術者の指導育成にも尽力するなど本県文化の向上に大きく貢献した。



保健衛生の向上

佐賀リュウ

(69才)

現住所

秋田市

佐賀氏は、大正14年以来44年の長きにわたり看護業務一筋に精励し、その間、昭和22年から秋田赤十字病院教務主任、日本看護協会看護婦会秋田県支部長に就任、情熱を傾けて後輩の育成にあたり、幾多の優秀な人材を社会に送るとともに県内看護婦の社会的地位の向上に尽力したほか、卓抜した指導力を発揮し県内各地における研修会等を通じて看護婦の素質の向上に努め、本県の保健衛生向上に大きく貢献した。



保健活動の推進

い ずみ しょう じ ろう
和 泉 昇 次 郎

(60才)

現住所

本 荘 市

和泉氏は、昭和26年由利組合病院長として就任以来、積極的に地域保健活動を推進するとともに本荘市、由利郡の地域センター病院長として高度医療、不採算医療等を先駆的立場で実践しているほか、本県における脳卒中、がん等の成人病及び農民の健康調査等に関する数多くの研究成果を発表し、県民の疾病予防、健康管理に大きく貢献した。

また、昭和39年に附属高等看護学院を設置し、今日まで190名の看護婦を育成、看護婦の充足にも尽力した。